



港区立高松中学校 学校だより<第10号>

平成31年2月4日 校長 鈿持 利行

創立1949年(昭和24年)

<高松中生のあたりまえ>推進校

港区高輪1-16-25

## 感謝の気持ち

副校長 松島 智子

3学期も一月が過ぎましたが、保護者の皆様には、1、2年生の席書会、百人一首大会、また学校公開・作品展示週間等のご来校、誠にありがとうございました。多くの方に参観していただき感想を伺うことで生徒も教職員も励みになりますので、今後のPTA行事等の機会に、たくさんの方に足を運んでいただきたく思います。

さて、1月はお正月から駅伝やサッカー、ラグビー等、お茶の間を賑わすスポーツ競技が目白押しでした。その中でも、私が最も感動したのは、先月26日に行われたテニスの全豪オープンで優勝した「大坂なおみ」選手です。彼女は昨年全米オープンでも優勝し、今回晴れて世界ランキング1位となりました。まだ21歳という若き女王の誕生に世界が沸きました。このことについては、いろいろな形で報道がされていますが、私が感銘を受けた記事がありますのでご紹介します。

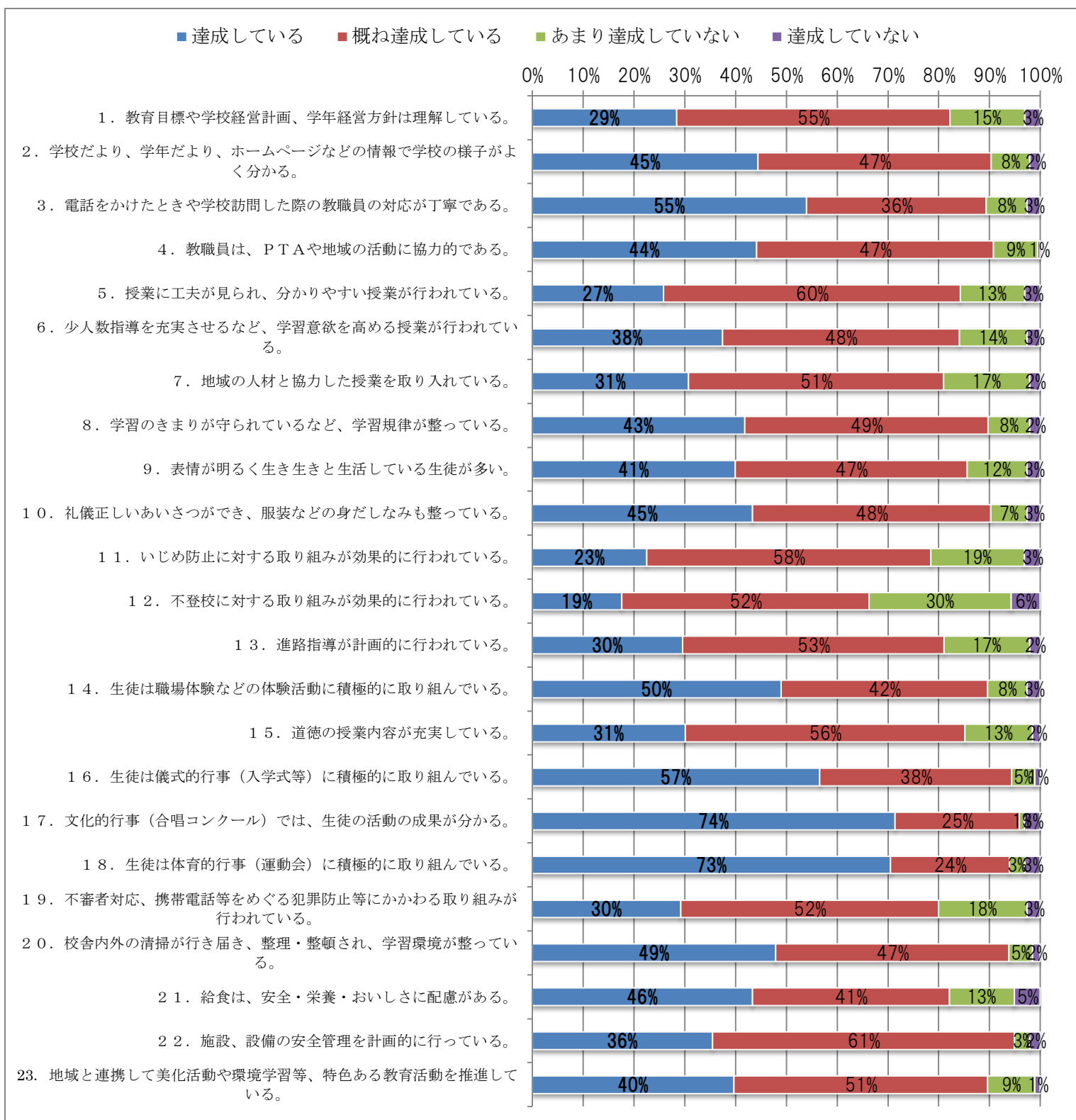
この記事には「二重国籍の彼女がなぜ日本登録で出場しているのか」について書かれていました。皆さんもご存知のように大坂さんは日本出身の母とハイチ出身の父との間に生まれ、3歳で米国に移住しました。日本語も苦手な彼女がなぜ日本登録をしているのか。それは彼女の家族の思いからだったのです。

記事によると、彼女が15歳の時、日本テニス協会の代表コーチをしていた吉川さんという方が、予選1回戦で敗れた大坂選手の才能を認め、以来、大坂選手のために、日本での練習場所の確保や大会への付添いなど地道な支援を続けてきました。大坂選手は米国でジュニア大会にも多く出場していたのですが、目立った成績は残せず、米国では埋もれた存在だったそうです。しかし、その後の彼女の活躍をみた米国は、大坂選手を米国登録にするために多額の支援を申し出たのですが、大坂選手のお父さんは、無名の時から娘を支援し続けてくれた日本の恩義を尊重し、今でも大坂選手は日本で登録し続けているのだそうです。

この記事を読んで、私は胸が熱くなりました。大坂選手の才能を見逃さなかった吉川さんや、彼女を支援し続けてきた多くの方々の努力があったからこそ今回の優勝だったと思います。さらに日本登録にすることで、そうした方々への感謝の気持ちを伝えている大坂選手の家族の思いが、うれしくもありとても素敵だなと思いました。私達も、決して一人で生きているのではなく、誰かに支えられ助けられ今の自分があるのです。大坂選手のように華々しく活躍して恩返しすることはできませんが、何かしらの形でお世話になった人への恩義や感謝の気持ちを伝えていけるといいですね。

さて3年生は、自分の決めた進路に向けて、あともうひと踏ん張りです。頑張りましょう。そして1、2年生は頑張る3年生を心から応援しましょう。

# 平成30年度 学校評価アンケート集計結果より



2学期末に行った保護者による学校評価アンケートへのご協力並びに多数のご意見、ありがとうございました。概ね、良い評価をいただいているところですが、皆様から貴重なご意見をいただき、日頃の取組みの中でまだ不十分な点もあることも確認いたしました。今後は改善も図りつつ、開かれた教育活動を目指してまいります。